みんなで育む　学びのまち　真室川

～ふるさとを愛し　高い志をもって　未来をひらく　人づくり～

第６弾

真室川スタディツアー 学びのしおり

真室川町を学ぶ一日。学びたい大人のための「社会科見学」で、真室川町がもっと好きになる！

【ツアー行程】マイクロバスで移動します

受付（8:00～8:30）⇒ 開講式・オリエンテーション ⇒ 象獅子(獅子岩) ⇒ 正厳院 ⇒ 不動明王の滝 ⇒ ふるさと伝承館(平枝番楽・昔話) ⇒ 差首鍋館跡 ⇒ 滝応寺 ⇒ 閉講式(12：30頃終了予定)

真室川町教育委員会　真室川町中央公民館

第６回真室川スタディツアー「いま、真室川がおもしろい！」

歴史と文化への誘い in 差首鍋・平枝 編

開　講　式　次　第

会　場：中央公民館玄関前
　※雨天時は中央公民館研修室
時　間：8：30～8：40

１．開　　会
２．主催者あいさつ
３．講師紹介
４．オリエンテーション
　(1) 事業の概要・タイムテーブル
　(2) 事務連絡(体調管理等の諸注意を含む)
５．閉　　会

閉　講　式　次　第

会　場：中央公民館研修室
時　間：12：00～12：30

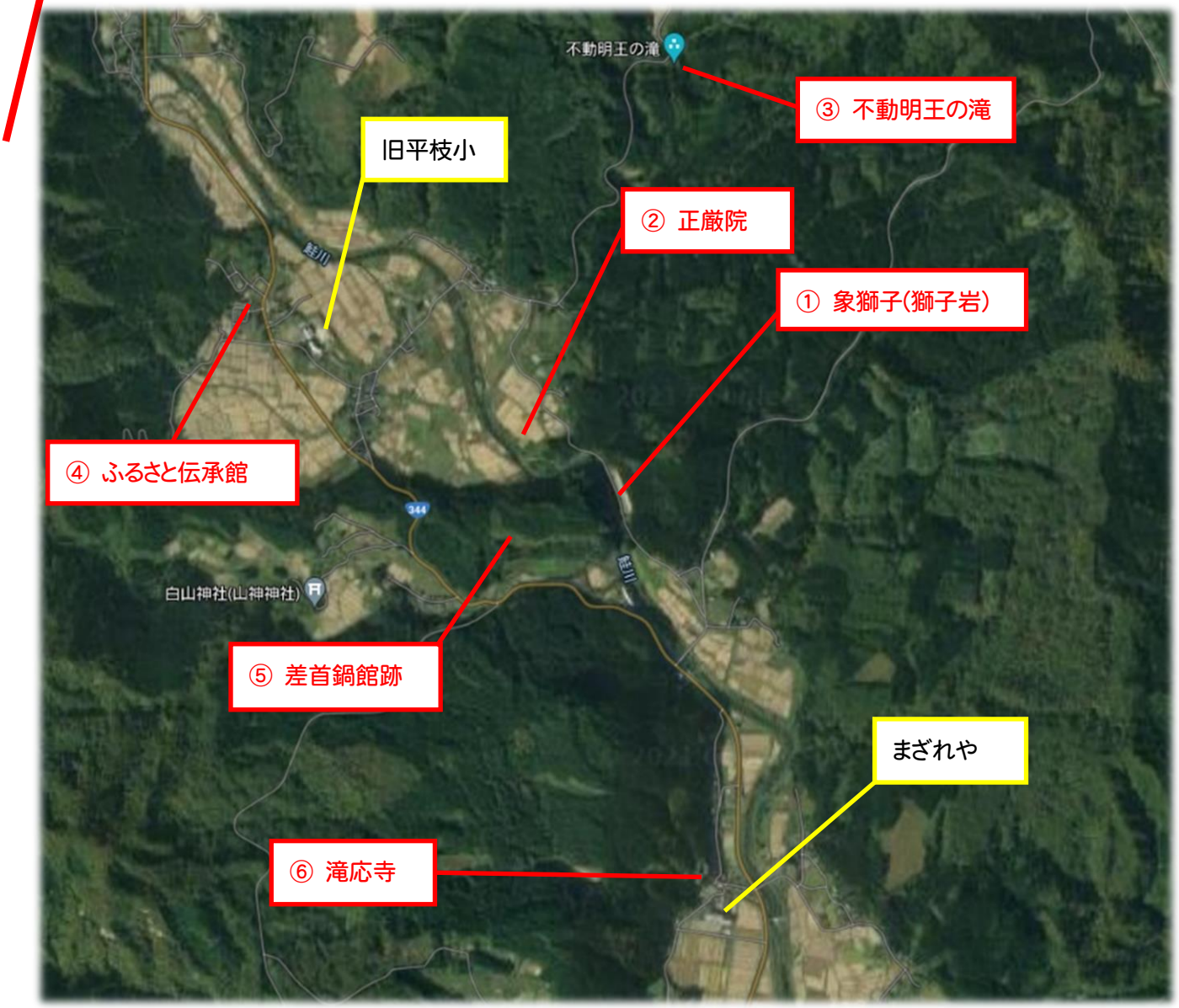
１．開　　会
２．修了証交付
３．主催者あいさつ
４．振返り(アンケート)記入
５．閉　　会

【スタディツアーについて】

真室川町のスタディツアーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

真室川町にはたくさんの宝物がありますが、地域の方々からは「真室川町には何もない」との声がしばしば聞かれます。子ども達は学校での「ふるさと学習」により、地域の宝物を多く学んでいます。しかし、その親・祖父母世代である大人は、真室川の本当の宝物や魅力を知らないままに生活している方が、案外いらっしゃるのではないでしょうか。そのようなことから、今回、改めて地域の宝を再発見する社会科見学を企画しました。子ども達と一緒に大人も町の良さを見つめなおすことで、「真室川町にはいいところがたくさんある」と自信を持って言える方が増えることを期待しています。

【見学地の位置】


不動明王の滝
③ 不動明王の滝
旧平枝小
② 正厳院
① 象獅子(獅子岩)
④ ふるさと伝承館
344
白山神社(山神神社)
⑤ 差首鍋館跡
まざれや
⑥ 滝応寺

【真室川町の概要】

（令和３年９月末現在）

○人口：7,145 人　○世帯数：2,627 世帯

町のシンボル

◎町の木　「梅の木」

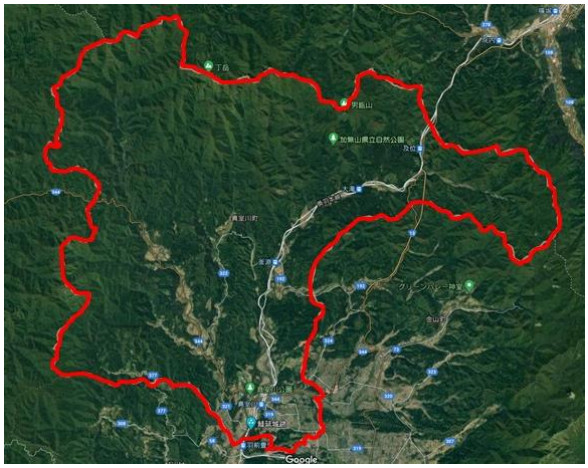
◎町の鳥　「ウグイス」

◎町の音頭　「真室川音頭」

◎町の花　「梅」

◎町の魚　「ハナカジカ」

◎町の昆虫　「ハッチョウトンボ」



地目	面積(㎢)	割合(%)
山林	295.05	78.8
田	20.61	5.5
畑	3.17	0.8
宅地	2.44	0.7
原野	9.22	2.5
その他	43.73	11.7
合計	374.22	100

(H31.1.1 時点)

真室川町は、山形県の内陸最北部に位置し、北側は秋田県に接している。

町の約 79%が山林の中山間地域であるため、古くから林業・農業が盛んである。

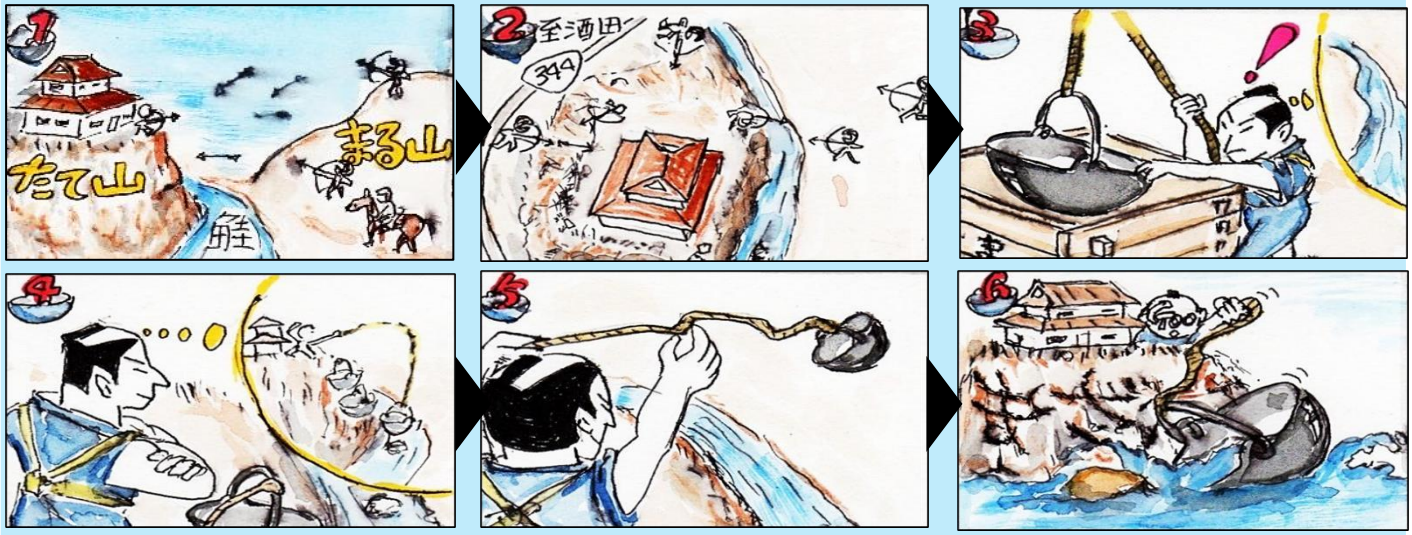
また、各地区には伝統文化が数多く継承されており、番楽・囃子・わらべ唄のほか、伝承野菜等も引き継がれている。

【「差首鍋」の由来】

○「差首鍋」という地名には、いくつかの説があるといわれている。
ここでは、諸説の中から、有力とされているもの、また地元で言い伝えられているものを紹介する。

【1.地元で語り継がれるもの(戦乱由来)】　※まざれや倶楽部・有志調べ

①戦国時代、館主である沓沢玄蕃と、最上義光の戦いがあった。
②最上氏の軍勢に城を包囲されたが、水が湧いていたためなかなか落城しなかった
③長期戦となり、清水が枯れ果てた。
④城から**首**を**差**し出し、あることに気づき、
⑤**鍋**を吊るし、城下の川へ投げ入れた。
⑥川から水を汲み上げ、
⑦その水で耐え忍んだことから、**「下げ鍋」⇒「指首鍋」⇒「差首鍋」説**と、**「首を差し出すように鍋を吊るした⇒差首鍋」説**が伝えられている。



【2.朝鮮由来とされるもの】　※山形地名伝説(山形新聞社)から引用

古い辞書によっては「差鍋(さしなべ)」、「銚子(さしなべ)」と書き、酒を温める鍋を指し、昔の朝鮮においては「城」を意味したとされる。差首鍋地区にそびえる「丸山」には、朝鮮が「新羅(しらぎ)」であった頃に渡来人が移住し、石窟(せっくつ)を構えた形跡があることから、「差首鍋」の語源になった。

【3.アイヌ語由来とされるもの】

アイヌ語のサス(砦)、ナイ(川)、ペ(所)から、「サスナイペ⇒サスナベ⇒差首鍋」と言葉が変化した。

その他諸説ありとされています。

【「差首鍋」各地区名の由来】

地　区　名 (ふりがな) [地元の読み方]	由　来	地　区　名 (ふりがな) [地元の読み方]	由　来
高　坂 (たかさか) [たがさが]	・昔から庄内と交流が盛んで、**高**い**坂**道を通る庄内街道があったため	**山　屋** (や　ま　や) [や　ま　や]	・山のある家⇒山屋 ・山ぎわの？
野　中 (の　な　か) [の　な　が]	・昔、田んぼを野(の)と言ったところがあり、以前の家が**野**の**中**にあったため ※「野中」は１軒のみ、地区名ではなく「屋号」	**太 郎 水** (たろみず) [たろみず]	・江戸時代の古文書にも太郎水とあるが、いわれを知る人はいない
平　枝 (ひらえだ) [ひ　れ　だ]	・となりの地区「大**平**」から**枝**別れして、**平**らな所に集落を作ったため	**詰 田 沢** (つめたざわ) [つ　め　ざ]	・沓**沢**玄蕃がたて山から攻め落ちるとき、攻め**詰**めた所だったため
大　平 (おおだいら) [お　で　ら]	・昔、大平は現在の平枝を含めた**大**きく**平**たい台地であったため	**沼 の 頭** (ぬまのかしら) [ぬまのがしら]	・昔、たかはげ(山)が崩れて**沼**地になった所があったため ・中村湿原周辺の「つなぎ**沼**」の**頭**(北の方)
大　池 (おおいけ) [お　い　げ]	・昔、象獅子の所が狭くなっていたころ、大平・大池周辺は**大**きな**池**だったため ・昔、象獅子の川床が高く、大池周辺は**大**きな**池**のようだったが、洪水のたびに池がなくなり、現在の形になったため	**沼　田** (ぬ　ま　た) [ぬ　ま　だ]	・戦前は「**沼**の頭」だったが、終戦後に「詰**田**沢」と一緒になり、「沼田」となった
干　泥 **肥　泥** (ひ　ど　ろ) [ひ　ど　ろ]	・大池周辺が池だった頃、泥が溜まった場所だったため ・一面に溜まった泥が乾燥し、**干**した**泥**になると田畑に利用されたため ・溜まった**泥**が、**肥**料のいらない土地だったため	**中　村** (なかむら) [ながむら]	・沼田と山屋の真ん**中**の**村**であるため ・「**中**」という**村**から「**中**の**村**⇒中村」 ・昔の川は山屋側を流れていて中村川の面積が広く、「**中**央にある**村**⇒中村」
谷地の沢 (やちのさわ) [や　じ　さ]	・上流に大水芭蕉の群生する湿地帯があり、地区西方が一面**谷地**(湿地)だったため ・上流に**谷地**が多く洞窟で、塩の岩屋やコシノ岩屋等があり、地区周辺も谷地だったため	**滝 の 上** (たきのうえ) [たぎねぇ]	・**滝**の**上**の方に集落があるため ・入口は洲崎と言われるが、寺沢の**滝**の前に中州があり、その前に集落があるため ・滝の上に高田という所があった(高田⇒滝の上？)
西　川 (にしかわ) [に　し　が]	・**西**の方から**川**が流れてくる流域だったため	**長　里** **中　里** (ながさと) (なかさと) [ながさんど]	・明治初期は４軒ほどであり、戸数のわりに**長**い**里**だったため(地図上は長里) ・後に**長里**⇒**中里**(地元では中里)

その他諸説ありとされています。